



善正寺だより

掲示板法話

人と人の間で「人間」になる

それこそ一大事である



厳しい暑さが続いたこの夏、日本人の「いのち」に関して、憂慮すべき問題が発生しました。第一に高齢の不明者が続々存在すること、第二に児童虐待・育児放棄事件です。それぞれ事柄の背景や原因は異なります。しかし、いかなる理由があるにせよ、人間として、親子関係において、恥ずべきことと言わざるを得ないのではないのでしょうか？

ところが、テレビ討論などでは、「人間として」という側面が余り問題にされず、行政の怠慢とか制度的欠陥ばかりが論じられます。いきおい、問題解決の方向は行政や政治の課題になるような印象です。確かに少子高齢化社会の進行により、高齢者介護とか、子育てに行政や地域社会が関わる場面は増えています。だが、行政とか地域とかいう言葉は抽象概念であり、他人事にされやすいのです。政治や行政課題を挙げるだけで「事足りり」となり、視聴者は一時的に気分がすっきりするだけです。

「人間として」という問題提起は自身自身の生き方、死に方に関わるので、タブー(禁句)にされています。その風潮

がモラル・ハザード(倫理崩壊)をこころまではびこらせるようになった原因ではないのでしょうか? 「人間」という言葉は、それ自体「人と人の間において成り立つ」存在です。初めて子供(長男)が授かったとき、「お陰で親父になれました」とある先生に申し上げたら、「あんたはゼロ歳の親父ですね。十歳の坊やには十歳の親父としての役割がある。子供と共にあんたもじっくり育てていってください」と意味深長なるお祝いの言葉を頂いたことを思い出します。高校野球のヒーローインタビューで、「みんなのお陰で打てました」と涙に声を詰まらせるシーンをみると感動をもらいますね。苦勞を共にすることで初めて相手の立場や考え方が分かり、絆が強くなり、人生の喜びもまた深まるのです。

「人間関係はわずらわしい」と孤独、孤立に引きこもる人が増えていますが、それは心身を退化させます。逆に、人と関わることにより、頭脳も身体も活性化され、生き生きします。政治も大切だが、人生をどう生き、どう締めくくるのか。それこそ一大事なのです。

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

9月門信徒会例会

9月19日(日)午後7時半

- ① 親鸞聖人七百回大遠忌(1961年)の写真(本山、善正寺)
- ② 高齢社会と地域社会、望ましい生活スタイル:解説と座談

♪三重組コーラス♪

9月は陽光苑フラダンスにお任せ

☆9/25(土)夜7時半小杉練習、2010御堂演奏会楽譜

11/22(月)京都西本願寺御堂演奏会連続8回目参加予定
6千円、申し込みお早めに。バス8時半小杉、9時桜発

◇キッズサンガ

※9/4(土)午前9時、都合でこの日だけ午前中です。
※毎日夕方5時鐘撞きは誰でもOK 飴・ガム付。年中無休
予告※小杉町追弔会9月19日(日)午前・午後 光念寺様で

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評
開設2年で2万8千回アクセス達成! 毎日40~50訪問に感謝!
HPからのメール、悩み相談など歓迎! 拍手欄より一言メッセージを
どうぞ、私達の大きな励みになります。

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)
好評発売中。中西智海先生の推薦文も!
同時に一縁会テレホン法話の本も発売中。

★山の中秀夫様(8月5日亡・83歳)
西垂坂町) 合掌



最後は全員で歌う「思徳讃」が会場に響く
式章をつけたコーラス、暗譜で歌えるお年より



陽光苑慰問も5年目、40回目。顔馴染みの方、歌大好きな方、
待っていて下さる方。皆さんに会えてよかった。私達もいい勉強に

坊守スケッチ

行方不明になりにくい町



マスコミ報道によると、百歳以上の高齢者で行方不明の人が、全国で百数十名超えた。数字に驚くばかりではなく、その家族すら、何十年も安否を尋ねないで平気で過してしまっているという事実が愕然とする。年齢を引き下げてもっと詳しく調べてみたら、その数は想像を絶する。東京の事件のように家の中でミイラ化しているのか、火葬されたのか知れば知るほど気味が悪い。老人施設で亡くなった人の中で家族に連絡すると「そちらで適当に処理して下さい」と返事する。僅かな職員だけの拒否。またホームレスなどで無縁仏として処理された遺骨も数多くあるらしい。これほどまでに家族が崩壊したのかと思うと悲しくなる。背景には年金や相続問題等のお金も絡んでいられないが、福祉行政だけでは解決できない家族のあり方が問われている。

先日ある奥さんが「私達の町では、行方不明になりたくてもなれないわ」と言う。「どうして？」と聞くと

「私がどこかへ出かけようと、衣装を変えてバス停まで向かう中に、『あら、奥さん、今日はどちらへお出かけ?』と何人かの人から尋ねられる。誰にも気付かれずには出かけられない。見つかった以上お土産無しでも帰れない」。

確かにコーラスで御堂演奏会に出かけるが、帰りのバスの網棚はお土産で満載。人情に厚い土地柄の由縁だろう。中には、こういう人間関係をうつつとしいと感じる人もいるが、温かい言葉掛けが見直されるべきではないだろうか?昔は多めに作ったおかずや野菜などを、ご近所さんにお裾分けする風習があった。現在は近くにスーパーが出来て、お金さえ出せば何でも買える時代だが、お金では買えない思いやりの心が失われつつある。「下手に干渉したら嫌われる。ご近所がどうなるうとも私には関係ない」という割り切った考えの人もいる。個人情報保護法が出来てから、民生委員さんさえ踏み込めない事情がある。卓球場を借りに来る子供達でさえ「住所や名前も言いたくない。個人情報漏れるからダメ」と親が言う。その結果壊しても汚しても平気。「お人よしもいい加減にしたら。怪我でもさせたら貸した方の責任だよ」と中学生から忠告された。真心が通じない淋しい時代になった。

昔は在所同士の縁組が多かった。冠婚葬祭や農作業を助け合う為には、一番頼りになる絆であった。その上報恩講や盆参りという『参り付き合ひ』が結束を一層強固なものにした。子供からお年寄りまで親戚一同が仏前に集

る。「参りの日は遊べない日」と子供心にも刻まれ、「馳走も出るホームパーティーの日でもあった。もう一度、仏縁を中心にした絆の再生を取り戻そう。それが高齢者を行方不明にさせない地域作り、『土徳』の復活になる。」

☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆草いきれ 立つ朱雀大路 草叢に

「ちよんぎいす」聞く この声久に

☆金色も 地味に対する 鴉尾姿

大極殿の 絢爛故か

四日市市 釈 弘 蓮

☆お浄土に 生まれることは

定まっております

四日市市 I H

☆抱きしめて 庭石みえず

皇月咲く

四日市市 釈 乘 智

☆毎月の 寺報と共に コーラスで

お世話になりし 早八年

☆み教えを 寺報に乗せて 二百号

続けることが 明日につながる

♪三重組コーラス♪

☆陽光苑慰問9月はフラダンス担当

小杉練習今年の後半の予定

☆9月25日(土)夜7時半

☆10月30日(土)夜7時半

※11/3午後 光了寺報恩講、

※11/15夜 西勝寺報恩講

※11/22(月)京都西本願寺「御堂

演奏会」8回目の参加6千円申し込みは

お早めに!8時半小杉、9時桜バス発

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇9月4日午前9時より。都合で今月のみ時間変更注意。5時の鐘撞きは毎日。

カンパ有難う☆

川崎昌良様・栗本洋子様、匿名様多数よりお志・切手有難うございました。

☆ホットニュース☆

☆10月3日三重組お待ち受け法要第

二弾(八王子西光寺で)、「帰敬式」(法

名を授かる法要)に12名が申し込み。

☆友引を気にしないお葬式に感激!

浄土真宗では、葬式を友引にしても構い

ません。ある地方では友引の翌日は葬儀

場や焼き場が大混雑で困っているとか。

慶事も大安等の日の良し悪しを選ばな

い教えです。塩をまくという迷信も信じ

ません。噂に迷ったらお寺にご相談を。

☆善正寺のホームページ。『三重 善正

寺』で検索可。毎日更新の「住職と坊守

のつれづれ日記」が好評。開設2年で2

万8千以上アクセス!

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の

眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発

売中!挿絵は門徒の服部雅之氏(定価

1260円を著書割引千円で特別販売)

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第二〇一号をお届けします。◇この夏の暑さは格別でした。日本も亜熱帯化しているかもしれません。いつか、米がとれるのは北海道だけ、の時代が来るのかもしれないと考えさせられた。◇「いのちの危機」も深刻!「二度とない人生」かけがえなきいのち」を見つめ、味わう秋でありたいと願う。

善正寺だより201号をお届けします。平成5年スタート以来、毎月欠かさず発行し、17年の歳月が経ちました。この間大切な愛読者が何名もお浄土に旅立たれました。私を育てて頂いた恩人の皆様のお顔を思い浮かべながら毎月筆を執っています。二年前からホームページを開設し中でも毎日のブログ更新は好評で私達の日々の仕事の重要な一画を占めています。寺と今までご縁のなかった方、遠方の方とのアクセスも多く、寺報以外にも寺の情報発信として大きな位置を占めています。今では開設二年で3万アクセスを達しようとしています。「ブログのおかげでお寺の生活が丸見え、私達と同じ悩みを持っているので親近感がある」といわれと気軽に話し合われ相談を受けけるようになりました。ところで九月は敬老の日、先年102歳になられる菅谷藍さん(大阪)という女性を紹介していました。二十年以上一人暮らしを続け今でも善道教師として若いお弟子さんに囲まれた生活をしています。「世間様のおかげで今の私がある、老人も甘えるだけはいけない、自分のことはできるだけ自分でして、いつれ世話になる時には素直におれを言おう、嫌まわれる年寄りや若らう、肩書きがとれた時とれただけ周囲に人が居るか昔の友達とはあり、つき合うのでは淋しい、世代や立場を超えて多くの人と交わらうし102歳の含蓄のあるお言葉もす、ぜひ私達もお手本にしたいものです、合掌

平成二十二年九月 善正寺坊守 拝